

《 生活科における授業改善推進プラン》

I 生活科における令和元年度授業改善推進プランの検証

〈取り組みにおける成果と課題〉

- ◎ 「がっこうたんけん」「昔遊び」など、1・2年生の交流の機会を定期的に設定したことで、学年の枠を越えた交流が充実してきている。
 - ◎ 学校案内の計画を立てるための取材を通して、校内の教職員との交流を深めることができた。
 - ◎ 1年生は、2年生と交流をもつことで、来年度の学習活動への意欲へつなげることができた。
 - ◎ 1人1鉢栽培として1年生はアサガオやチューリップ、2年生は、ミニトマトを栽培した。自分の鉢を大切にすることが育ち、意欲的に観察することができた。
- ▼ 自然とのふれあいを深める校内環境の自然が限られている。そのため、校外学習等で自然や生き物とのふれあいを経験させる必要がある。
 - ▼ 地域の方や異学年の児童とかかわりをもつことができたため、その広がりを継続していく必要がある。

II 授業改善のポイント

1 主体的に活動しながら人とかかわりを楽しめる児童を育てるために

- 学年や他学年との交流などの活動をした後に振り返りの時間を設定し、具体的な体験活動や互いの思いを知らせ合う活動を行うことで、お互いのよさを認め合うことができるようにする。
- 「昔遊び大会」では地域の方との交流の機会を設定し、様々な方とのふれあいの機会となるようにする。

2 身近な自然や社会とかかわり合う活動や経験を豊かにするために

- 身近な自然を観察したり、動植物(金魚・アサガオ・ミニトマト等)の世話をしたりして、自然とのふれあいを深めさせる。校内のビオトープも有効に活用する。

〈1年生〉

- 自分が世話をしたり採集してきたりした植物を活用して、作ったり遊んだりする活動に取り組みさせる。
- 校外学習では自然の植物や昆虫等に気付き、ふれあう活動を充実させる。

〈2年生〉

- 町探検など、校外での見学活動を充実させる。その際、地域の一員としての自分に気付き、社会性を身に付けられるような活動にしていく。
- 校外学習では、自然や小動物とふれあう活動を充実させる。